6	昭56. 5. 20	日本の希望子供数	渡邉　吉利　技官
7	昭56. 5. 27	地域人口移動パターンの考え方について	岡崎　陽一　技官
8	昭56. 6. 3	欧米諸国の出生政策	阿藤　誠　技官
9	昭56. 6. 10	小地域の年齢別人口変動について	河邉　宏　技官
	〃	米国ペンシルバニア大学の人口学コースについて	高橋　重郷　技官
10	昭56. 6. 17	国勢調査の結果に現われた地域人口の年齢別変動——関東地方都県を中心として	山口　喜一　技官
11	昭56. 6. 24	第7次出産力調査結果に基づく夫婦出生力の計測	伊藤　達也　技官 山本千鶴子　技官

資　料　の　刊　行

（昭和56年4月～6月）

〈資料題目（発行年月日）〉　〈担　当　者〉

○人口問題についてのおもな数字　第32号（昭和56年5月版）……石川　晃　技官

○「研究資料」

第224号（昭和56年6月1日）

コスティツィン著　生物数理論 ……篠崎　信男　技官

第225号（昭和56年6月1日）

国際連合の推計に基づく世界の地域別人口基本構造 ……山口　喜一　技官
渡邉　吉利　技官
笠原里江子　技官

○「部内研究資料」（昭和56年6月1日）

人間に向いて発する人間の問——人類実存哲学への接近—— ……篠崎　信男　技官

○「実地調査報告資料」（昭和56年6月1日）

昭和55年度実地調査　女子のライフ・サイクルと生活意識の変化に関する調査

——概報および主要結果表—— ……濱　英彦　技官
中野　英子　技官
池ノ上正子　技官
石川　晃　技官

昭和56年度実地調査の施行

本研究所においては，昭和56年度の実地調査として「人口移動と定住に関する調査」を実施した．その調査要綱を掲げると次のとおりである．

「人口移動と定住に関する調査」実施要綱

1. 調査目的

最近，わが国の地域人口の形態には著しい変化がみとめられ，いわゆる大都市地域への人口移動は減少し，地方中小都市への移動が増大している．その背景には人口の年齢構成の変化，地域経済構造の変貌，住民意識の変容など，多くの要因が働いているものと思われる．人口問題研究所では人口移動部を中心にかねてから人口移動に関する研究を続けて来たが，今回，とくに地方中小都市への人口移動と定住の問題について実態調査

を行ない，その要因と将来動向を明らかにしうる資料を得たいと考えている．

2．調査の方法

選定された地域の調査区に住んでいる20歳以上の男女を対象にし，調査票を配票，自計により調査を実施する．

調査票の配票および回収は，下記調査対象市に依頼して選定された調査員が行なう．

3．調査対象地域および客体

(1) 調査地域

宮城県	仙台市
	石巻市
	古川市
熊本県	熊本市
	八代市
	荒尾市

(2) 調査客体

仙台市	1,250世帯
石巻市	1,250世帯
古川市	1,200世帯
熊本市	1,250世帯
八代市	1,250世帯
荒尾市	1,200世帯

4．調査時期

昭和56年6月1日～9月30日

5．調査事項

(1) 基本的人口学的事項

(2) 住所移転に関する事項

(3) 定住に関する事項

(4) 生活，とくに健康，食生活に関する事項

6．結果の集計公表は昭和57年3月末に人口問題研究所が行ない．関係の県および市に送付する予定である．

第33回日本人口学会大会

日本人口学会の第33回大会は，昭和56年6月5日（金），6日（土）の両日にわたり，仙台市の東北学院同窓会館において開催された．日本人口学会の全国大会が東北の地で開催されたのは，昭和52年5月に福島市で開かれた第29回大会以来2回めのことである．今回の大会は，本学会の重鎮で東北学院大学（経済学部）教授の米沢治文会員を委員長とする大会運営委員会の多大の努力によって，盛大な大会日程を終了した．参会者は100名をこえ，本研究所からも多数の関係者が出席した．

研究発表会における一般報告，シンポジウムの題名および報告者を示すと次のとおりである．なお，本年度は会長講演も行なわれた．

第1日（6月5日）

○一般報告

1．インド北部の人口都市化の特徴―カルカッタ大都市圏の周辺地域を